

31. 気になる世相幾つか（3）

（1）台湾の IT 担当相

テレビのニュースで、台湾の IT 担当相が新型コロナウイルスに関連したマスク管理で活躍したことを報じたのを見て感激した。

38 歳のオードリー・タン（唐鳳）IT 担当相や衛生福利部の公務員たちは、台湾のエンジニアたちが自由に開発できるように台湾中の各薬局のマスク在庫状況のデータを公開し、これを数日で成し遂げ、公開されたのが「マスク在庫マップ」であった。台湾中の薬局情報がマップ上に表示され、マスクの在庫数が表示される仕組。購入希望者は在庫のある薬局を効率的に目指すことができるようになった。さらに台湾政府は、健康保険証のシステムを利用し「マスク購入の実名制」を導入。市民はマスクを買う際に保険証を持って買い、ID カード（身分証）のナンバーによる購入ルールも設定して買い占めを防いでいる。

タン氏は 2016 年、35 歳の若さで IT 担当相に抜擢される。プログラミング言語「Perl6」（私はどういうものか不理解）の開発に深く関わり、Apple のコンサルタントとしても働くなど、天才プログラマーとして広く知られる人物だという。入閣前から、オープンガバメントや政治の透明化に意欲を持ち、Web サイトを運営していたともいう。

日本の科学技術・IT 担当大臣は竹本直一氏（78）だ。「スマートフォンで SNS を投稿できる」ことが就任の理由だと噂される。情けない世界だ。年齢も能力もタン氏と竹本氏では天と地ほどの差がある。日本はいつまでこういう任命の仕方をしているのだろうか。

（2）新型コロナウイルスとオリンピック

新型コロナウイルスの感染が広がっている。クラスター（感染者集団）、パンデミック（世界的大流行）などという聞き慣れない言葉を頻繁に聞くようになった。

各国政府の感染者の発表は、中国が 80,881 人（死者 3226 人）、イタリア 31,506（2503）、イラン 16,169（988）、スペイン 11,178（491）（3 月 18 日午前 2 時現在、NHK）。別の記事では韓国 8,320（84）ドイツ 6,012（13）、フランス 5,423（127）、米国 4,427（86）、日本 1,570（36）（内クルーズ船 712）といったような人数。ただ、検査数は不明。特に日本は母数なる検査数がほとんど発表されず、感染者数の比率がわからず全貌が把握できない。感染者数のニュースを聞いていても歯がゆい。

一方で入国制限や移動制限が相次ぎ、非常事態宣言も目につくようになってきた。

イタリアでは感染が爆発的に広がり、医師、看護師が対応しきれない「医療崩壊」が起きて死者が急増しているという。日本政府の基本方針は、軽症者は自宅での安静・療養を原則とし、死者や重症者を出さないため、高齢者や基礎疾患がある人の受診を優先するというようなもの。当初、軽症者を診察対象としない診察には疑問を抱いていたが、医療崩壊を起こさないための策として止むを得なかったのかと思直している。

新型コロナウイルスは当初、高齢者で基礎疾患を患っている人以外はさほど危険でないと思っていたが、徐々にそうでもないように思えてきた。それに流行るのは寒い時期で、暖くなればウィルスは死滅すると思っていたが、日本の夏みたいな気候にあるシンガポールでも流行

っているというので、そうでもないようだ。これでは、いつ頃収束するのか見えて来ない。

もう一つ今政治問題化しているのが、2020 オリンピックが予定通り開催できるかということだ。今の感染状況と今後の国毎の地域差を考えると開催は危ぶまれる。70 %の人が延期というアンケート結果も出てきた。

これに対して IOC は 3 月 17 日に「五輪予定通り」と発表したけど、これから大きな問題になるような気がする。都知事も五輪担当大臣も予定通りを強調するが、それは表向きのことだろう。様々なケースを想定しなければ危機管理も何もない。要は「命」の問題と考えれば予定通りはあり得ないと思うのだが。

オリンピックは商業主義、メダル主義、規模拡張主義になり過ぎている。開催時期も含めてビジネスモデルとしても適合しなくなっている。

オリンピック憲章には、「オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てることにある」とある。新型コロナウイルスを契機としてオリンピックの開催方法は見直すべきだ。

(3) 関電の金品受領問題

関西電力高浜原発が立地する福井県高浜町で、関電の経営者や原発立地関係者らが町の元助役（故人）から、小判や現金入りの菓子袋・スーツ仕立券などの多額の金品を受け取っていた問題が発生し、この度、第三者委員会による調査結果が示された。

元助役と関連の深い地元建設会社には、関電から原発関連工事が次々発注されていたというのは既に報道されていた。建設会社からは、元助役に多額の資金が渡っていて、関電から出た「原発マネー」が、関電の経営者に還流していた訳だ。そのカネは勿論電気料金からだ。

元助役側からの受領者は 75 人、総額 3 億 6,000 万円に及び、工事発注の見返りと結論され、時期的には 3・11 後に原発の安全対策工事が増加の中で、受領者や金額がふくらんだという。

第三者委員長は「地元対策に透明性がないことが今回の原因」と指摘した、と記事にあるが、このような事件は今に始まったことでもないだろう。しかし、原発だけに「原発の闇」と言われる。こんなことをしていて工事は安全に施行されたのかと誰もが疑ってしまう。

そして、日本のトップ企業の経営者が、一助役からこのように易々と取り込まれてしまう脇の甘さというのは何なんだろう、と思ってしまう。節度のなさ、矜持のなさ、真の教養のなさではないか。情けない事件だ。

(4) 肥沼信次医師

新聞記事で、肥沼信次医師（1908 ～ 46）のことを知った。こえぬまのぶつぐ第二次世界大戦後の混乱期にドイツで感染症治療に尽力した人という。八王子市出身。

記事は、慰霊式が命日の八日に独東部ウリーツェンで行われたことを伝えていた。命をなげうって発疹チフスに立ち向かった肥沼医師の献身は今も地元の人々に語り継がれているという。「肥沼医師は戦争によって研究ができなくなってしまったが、人々のために尽くすという姿勢は変わらなかった。今の時代、とても大切なメッセージだ」とウリーツェンの市長は墓前で行われた慰霊式で、その偉業をたたえたという。

詳細は省くが、1945 年のドイツ敗戦後、ウリーツェンでは発疹チフスがまん延し、東部にいた肥沼医師は進駐したソ連軍が開設したウリーツェンの医療施設で治療にあたるよう要請された。近隣の村にも往診に回り、約 60 キロ離れたベルリンまで二日ばかりで出掛け医薬品を

集めた。たった一人の医師として患者を救うため不眠不休で感染症と闘ったが、46年3月に、自身も発疹チフスに倒れ、37歳の短い生涯を閉じた。

崇高な精神に感激する。新型コロナウイルスで世の中が大変なときだから余計に感じるのだろうか。

戦後、東ドイツとなったウリーツェンから肥沼医師の偉業が日本に伝わることはなく、家族と連絡が取れたのは1989年のベルリンの壁崩壊直後のことという。近郊の郷土博物館長が戦争中の証言を集める中、共同墓地で偶然墓を見つけたことがきっかけだったという。

こういう話を聞くとたまらなくなる。

(5) 天才数学少年

こういう小学生がいるのだとビックリした。ある週刊誌の記事から。

小学6年生の高橋^{ひろと}洋翔くんは小5で大学卒業レベルの実用数学技能検定1級に史上最年少で合格している。今年2月には日本数学オリンピック（数オリ）の予選合格者200名あまりが発表されたが、その学校名欄には名だたる有名中高ばかりが並ぶが、この中に混じって唯一小学生の洋翔くんの名があったという。

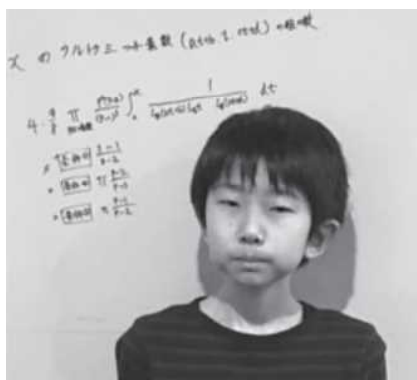
「気が向いたらリビングのホワイトボードや自分の部屋で勉強、平日で2時間、休日は4時間くらい。いまは大学範囲の代数学と、数論という数の仕組みに関する分野の研究中、完全数や双子素数、三つ子素数などが対象。数オリで活躍したいのでその勉強にも力を入れている」と本人がいう。

洋翔くん曰く、数学に興味を湧いたのは2歳の時。親が買ってくれた「ゲオマグ」や「ピタゴラス」で立体パズルを作るうちに数学にはまり、気づいたら問題集を解いていたという。3歳時には素因数分解が暗算で解けたとも。小1の時にはある講座で講師の著名な大学教授の目にとまり、以来指導してもらっているという。その先生は「彼には数学の本質をパッと見抜く天賦の才がある」という。

洋翔くん自身は「数学者になってフィールズ賞を取りたい、新しい定理を作ったり、数学界で解明されていない問題を解く手がかりを見つけられたら」という。

洋翔くんの写真の後ろには、なにやら難しそうな積分の式が書かれている。

この「折々の記」のNo.20で、「9歳男児が大学卒業」のことを記したが、洋翔くんも凄い。本当にこういう子がいると再認識した。将来是非夢を叶えて欲しいと素直に思う。



(2020年3月18日)